

“言葉の力”を焦点化

## 道国語教育連盟 上川・旭川大会

**【旭川発】**道国語教育連盟（大田利幸委員長）は8日、第76回道国語教育研究大会上川・旭川大会をオンライン開催した。全道各地や道外の教職員、大学生など約220人が参加。研究主題「言語活動を通じて自らの考えを築き、つながる言葉の力を高める授業の創造」のもと、小・中学校それぞれ5つの分科会に分かれ、事前配信された研究授業や提言について協議した。

A black and white photograph of the exterior of the HOME LAB building. The building is a modern, single-story structure with a flat roof and large windows. The words "HOME LAB" are prominently displayed on the side of the building. In front of the building is a paved area with some small trees and a low wall. The sky is overcast.

リーダーシップ向上研修の動画を配信している。渡島教育局の毛利繁和主幹が組織として改革を進める3つの要件(共通目的、貢献度、欲、意思疎通または情報共有)、業務改善の取組を進めるポイントを伝えていく。

士別市教委は、  
ワイルス感染症  
期していた令和  
字旅行・宿泊  
評受付

クーポン  
中!!! 研修分  
ルス感染症  
は、延期  
ある。催。今後の

健康的で、クリーンな室内環境を実現した「炭の家」で知られる㈱ホーム企画センター（札幌、浅井正則社長）は、家づくりの複合情報発信拠点「HOME LAB」（ホーム・ラボ）をあす16日にグランドオープンする。カブエや雑貨販売、新築する家のVR体験など、楽しみながら家づくりを体感できる施設を通して、広く同社を知つてもらう考えだ。

の量もわかるよ  
うになつてい  
る。

2階は、同社  
の家づくりに関  
する情報展示  
や、スマートス  
ピーカーを使つ  
ビールーム」など、「プラ  
スベース」、休日に家族で  
料理やお菓子をつくること  
を想定した「II型キッチン  
スペース」、自転車や工  
具、鞄、ミニカー、フィギ  
ュアなどの展示がある「木

道と㈱マイナビが連携し、前年度から開始した地域を学ぶオンライン学習サマー「locus(ローカス)」を身に付ける機会となるもの。

A black and white photograph showing a person from behind, wearing a dark jacket, standing in front of a chalkboard. A small dog is visible on a shelf to the left.

企業訪問を通して得た情報を伝え  
る。」

定。学習プロセスの明確化や、言葉の力の焦点化など、これらの5つの分科会に分かれることで、より効率的な授業が実現する。  
むこと(説明文)・言語文化の5つの分科会に分かれ、研究授業や、研究授業提言について協議した。

うち、小学校では、旭川市立旭川第三小学校の運営の様子を詳しく見てみよう。

旭川第三小学校は、旭川市立の小学校で、校舎は2棟ある。児童数は約1,000人ほどで、教員数は約80人ほどである。校長は、小学校の運営や、児童の学習指導、教員の育成などを担当している。また、地域社会との連携も重要な役割を果たしている。

旭川第三小学校では、児童の個々の才能や興味を尊重し、多様な学習環境を提供している。児童は、自らの興味や興奮をもって学ぶことができる環境で、児童の主体性を尊重する教育を行っている。

旭川第三小学校では、児童の学習指導や、児童の育成を目的とした教員の育成を行っている。児童の学習指導や、児童の育成を目的とした教員の育成を行っている。

旭川第三小学校では、児童の学習指導や、児童の育成を目的とした教員の育成を行っている。

**地域活性化**

教諭が公開した授業支援クラウド「ロクト」を活用した4つの単元「和!いい」と「和の和紙」で筆者の仕方をどうえたりやりした上で、伝統工芸について本などで調べたリーフレットにまとめて、細貝教諭によると、意見交流。興味・説明を踏まえ、参加7日付2面既報。

【函館発】函館西高校（真橋敏史校長）は12日、同校で2年生を対象に実施した「フィールドスタディ（職場体験・見学）」の発表会を行った。様々な企業等を訪問した生徒が、SDGs（持続可能な開発目標）の取組や地域貢献活動を参考に、未来の地域活性化に向けた取組についてポスターセッションで考えを発表した。

同校は総合的な探究の時間を利用し、1年生は各学級単位、2年生はグループ活動、3年生は個人で様々な分野から課題を見いだし、自身のキャリア形成を考える教育活動を展開している。

ており、22社  
函館市内の会社  
と27社を訪問  
訪問後、生徒た  
のグループで  
献活動などを  
解決に向け  
タにまとま  
当日は、27

39人が8月に企業や事業所な  
どに就職した。

PS機能などと考えた  
動として、へ  
また、へ  
いる」と説明  
は「人間も  
守つてい  
地球温暖化  
てている」な  
発表を題

企業の社会貢献活動を「取り付ける」な  
と明。秋田楓悟さん手をかけて魚を  
る様々な取組が、化防止につながつ  
じと伝えた。

|              |              |                     |             |             |
|--------------|--------------|---------------------|-------------|-------------|
| 充弘教諭による授業    | 吉澤康伸教諭による授業  | 比布町立中学校の吉澤康伸教諭による授業 | 吉澤康伸教諭による授業 | 吉澤康伸教諭による授業 |
| 関心をもたせる上で、導入 | で伝統芸能の実物を見せた | ことは効果的だった」なら        | の声が上がった。    |             |
| 研究協議を展開。言    | 約の必要性を伝えることは | 要約にかかわる話題で          |             |             |
| を通して知的好奇心    | 大切」「スマールステップ | は、「根拠を示しながら語        |             |             |
| ・論理的に読む力     |              | 約の必要性を伝えることは        |             |             |
| ・学習活動などにつ    |              | 大切」「スマールステップ        |             |             |
| 見を交わし、全道各    |              |                     |             |             |
| 学園を交流する貴重な   |              |                     |             |             |
| 函館西高2年 職業    |              |                     |             |             |

ら、同じ教材を扱う地域間で「資料を共有できれば」との声も上がった。提言発表では、旭川第三小の高橋教諭と中村教諭が、3年生の教材「すがたをかるる大豆」を中心に単元構築した授業実践を紹介した。

|            |                  |                          |                 |
|------------|------------------|--------------------------|-----------------|
| 自身の性格などを活用 | 千葉昌之校長<br>え、旭川市立 | と課題を紹介<br>りで実践する<br>それぞれ | 年生の教材<br>ペーパーサー |
|------------|------------------|--------------------------|-----------------|

トを設定し、2  
すみれとあ  
した授業の成果  
介した。

立新小学校の  
の協議を踏ま  
長が助言した。

から推奨企  
どから

た機材の回収、撤去作業を実施する。防  
止するため、事故が発生してしまった  
場合に備えて、取り組んでいます。

回収を行う船舶解体業など、「船の事による海への被害をための環境活動に」と紹介。約700件の事故していることを踏まして減らすための解した。

|   |   |  |  |  |  |  |
|---|---|--|--|--|--|--|
|   |   |  |  |  |  |  |
| によつて積極的に取り組め<br>ていた」との感想が。「檜<br>山では違う教科書を使用し<br>ているが、他管内では要約<br>を扱う際、前の学年とのつ<br>なりをどのように意識し<br>て指導しているのか」との<br>質問も挙がつた。 | 介。タブレット端末の効果<br>的な活用によつて「読むこ<br>と」の内容を深く学ぶとど<br>もに、「書くこと」の活動<br>でより良い表現に向けて粘<br>り強く取り組む態度が見ら<br>れたことなどを伝えた。                 | 1年生236人に成果を発<br>表。各グループ7分間の発<br>表を行つた。1年生は様々<br>なグループの発表を巡回<br>し、キャリア形成や地域貢<br>献等について視野を広げ<br>た。 |  |  |  |  |
| また、複合単元における<br>読みことから書くことへの<br>つながりについての悩みを<br>共有。調べ学習で使用する<br>テーマに提言。内容を丁寧   | 中央小の吉澤教諭は、「言<br>語活動を通して知的好奇心<br>を重視し、論理的に読む力<br>を育てる授業の創造」を<br>建設企業などを訪問したグ<br>ループのうち、函館市内の<br>建設企業・㈱富士サルベー<br>ジを訪問したグループは、 | ホテルや人材派遣会社、<br>建設企業などを訪問したグ<br>ループのうち、函館市内の<br>建設企業・㈱富士サルベー<br>ジを訪問したグループは、                      |  |  |  |  |
|   |   |  |  |  |  |  |